

科目分類	専門職の教育			開講学科	医療栄養学科
科目番号	学年	配当セメスター	区分	単位数	授業時間数
13093	3	後期	選択	1	45
授業科目名 (英文)	地域栄養学実習 (Practical work for community nutrition)				
担当教員名	梶 忍				
授業の概要及び到達目標					
<p>○授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域における栄養活動の事業計画と策定・実践から報告し発表までを学ぶ。</li> <li>・一次、二次、三次予防の視点を持ち、管理栄養士として地域全体を考える力を養う。</li> <li>・予防栄養学の観点から地域医療について考え、実践する力を身につけることを目標とする。</li> </ul> <p>○到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民を対象とした「健康教室」等の企画、広報、実施、評価、フィードバック等の一連のプロセスを通して実践的に、また実務的に可能な範囲で地域活動に参加する。</li> <li>・地域活動における、関係機関の支援や協力者との連携について学ぶ。</li> <li>・在宅(個人・世帯単位)や施設(例. 学校・医療・福祉・給食)など地域栄養の対象の広さを学ぶ。</li> <li>・様々な施設や立場で地域活動する管理栄養士の社会的役割を学ぶ。</li> <li>・事業計画書を作成し、計画、実施、評価を行う。また実施内容を口頭で報告・説明ができる。</li> <li>・地域における公衆栄養活動の実施にあたり準備すべき具体的な要件や注意点について学ぶ。</li> <li>・実施した事業計画について経過評価や影響評価を行い文章や図表などにまとめ説明できる。</li> <li>・調査や測定により得られた数値や記録のデータを考察するための適切な集計方法や統計処理方法を考え選択ができる。</li> </ul>					
準備学習等					
<p>○地域栄養や健康における問題点を考え、実施・参加可能な事業計画を調べておくこと。</p> <p>○地域連携したい施設・団体について、できる限り下調べしておくこと。</p> <p>なお、公衆栄養学実習(前期)で立案した事業計画を実践してもよい。</p>					
成績評価の方法	○授業出席状況(20%)、事業計画書の作成(20%)、報告書の作成(20%) 実施活動状況(20%)、報告会の発表(20%)				
テキスト	<p>○「新版公衆栄養学実習ワークブック」徳留裕子・東あかね(編) (株)みらい</p> <p>○「子どもの食と栄養」堤 ちはる・藤澤 由美子(編)(中央法規出版)</p>				

参考図書	<p>○「公衆栄養学」第6版 古野純典・吉池信男・林 宏一（編）（南江堂）</p> <p>○「公衆栄養学 2019年度版」編 酒井 徹・由田克士編（医歯薬出版）</p> <p>○「カレント公衆栄養学」 由田克士・押野榮司編（建帛社）</p>
備考	<p>校外実習となるため実施日程は、時間割の授業の時間とならない場合があります。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連については、別途明示している各学科の履修系統図をご確認ください。</p>
授 業 計 画	
<p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：地域課題について</p> <p>第3回：事業計画①（実際の実習に向けての計画策定）</p> <p>第4回：事業計画②（実際の実習に向けての計画策定）</p> <p>第5回：実施準備①（媒体作成）</p> <p>第6回：実施準備②（媒体作成）</p> <p>第7回：事業実施（実際の自治体にて実習）</p> <p>第8回：事業評価①（集計など）</p> <p>第9回：事業評価②（分析など）</p> <p>第10回：報告準備</p> <p>第11回：報告会</p> <p>第12回：まとめ・反省会</p> <p>（合計実習時間数：180分×12回）</p>	